

セラムック九州

佐賀県立九州陶磁文化館報

No.37

発行 2001.3.31

編集 佐賀県立九州陶磁文化館

代表者 溝上 雅章

〒844-8585 佐賀県西松浦郡有田町中部乙3100番地1
TEL.0955-43-3681 FAX.0955-43-3324

印刷所 山口印刷株式会社・伊万里市



黒釉耳付水指 銘「柴の庵」

館蔵資料

伊万里市・^{かめや} ^{たに} 甕屋の谷窯

1590～1610年代

口径 11.1cm

高さ 17.8cm

叩き成形により胴部が四角に作られた水指である。外面には篋で胴部の上下に波線、各四隅に二本の縦線を彫り、その他の外面には横筋をつける。口は落とし蓋がかかるように段があり、肩には太い横耳が二つ付く。内面には、同心円の叩き痕が残る。

底部には、三つの丸い小さな脚が付くが、中央に陽刻で逆L字形の印があり、類品の出土から伊万里市大川町の甕屋の谷窯製品といわれている。

世界・焔の博覧会5周年記念
有田ミュージアムズ連絡会発足記念
「有田の名宝」展

○趣 旨 平成8年に開催され、夢と感動を与えた世界・焔の博覧会は平成13年に5周年を迎えます。また、有田地区にある15か所の博物館・美術館・展示施設が集まって、平成12年3月1日に、「有田ミュージアムズ連絡会」が発足しました。

これは有田地区ミュージアムの交流・情報交換を通じて、今後の生涯学習時代に向けた新しい開かれた施設のあり方を模索し、相互の施設の振興、学術文化の発展に寄与することを目的とするものです。

この世界・焔の博覧会5周年と「有田ミュージアムズ連絡会」の発足とを記念して、佐賀県有田地区に所蔵されている代表的な肥前陶磁を一堂に会した展覧会を開催いたします。

さらに有田町、西有田町在住の方々が所蔵する名品をあわせて展示いたします。

この展覧会によって、ひとりでもより多くの観客の皆様方が有田地区にある15か所の博物館・美術館・展示施設を訪れる契機となれば幸いです。



有田ポーセリンパークにおける調査員たち

○主 催 「有田の名宝」展実行委員会

○会 場 佐賀県立九州陶磁文化館

○会 期 平成13年7月19日（木）
～10月14日（日）78日間
（月曜日休館）

○出 品 先 有田地区の当館の他14か所の博物館・美術館・展示施設及び個人

○出品点数 約200点

○展示内容 古唐津／初期伊万里／初期色絵
／柿右衛門様式／鍋島藩窯様式／古伊万里／明治・大正・昭和の名品／その他参考資料・各社紹介パネル・各社歴代制作作品とその銘款の解説・各社編年資料・デザイン集

○観 覧 料 大人500円（300円）

大学生200円（100円）

高校生以下及び障害者は無料

※（ ）内は20名以上の団体

○図 録 カラー図版による出品物・施設・解説掲載図録を発行する。



有田陶磁美術館所蔵所蔵

「色絵狛犬」1670～90年代・佐賀県重要文化財

寄贈記念展のお知らせ

「柴田コレクション展パート VII —17世紀の有田磁器—」

○趣 旨 平成2年に始まる柴田明彦・祐子夫妻の寄贈による柴田コレクションは、今まで6回におよぶ展覧会を開催して紹介をまいりました。このたびは新たな寄贈品により、17世紀の有田焼の歴史的な変遷と各年代の特徴をテーマとした展覧会を開催します。

○主催および会場

佐賀県立九州陶磁文化館

○会 期 平成13年10月19日（金）
～12月16日（日）

59日間 会期中無休

○出品点数 約500件1000点

○展示内容 江戸時代の有田磁器

（江戸初期から元禄期まで）

○観 覧 料 大人620円（510円）

大学生300円（200円）

高校生以下及び障害者は無料

※（ ）内は20名以上の団体

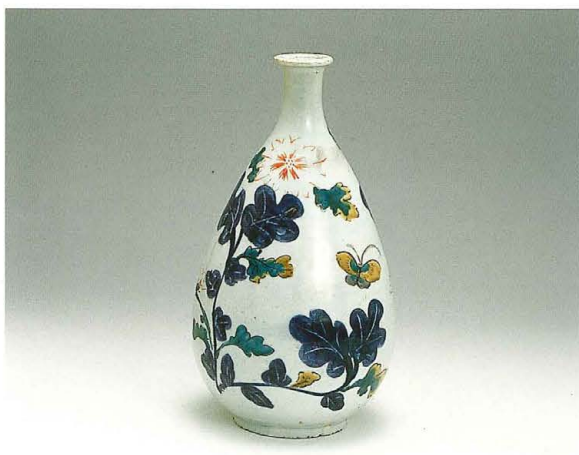
○図 録 展示品を掲載した図録を刊行する。



瑠璃釉染付菊唐草文小碗
有田 1610～30年代



色絵山水葡萄文輪花大皿
有田 1640～50年代



色絵菊蝶文瓶
有田 1630～40年代



染付兎牡丹唐草文大皿
有田 1660～70年代

「有田の名宝」 展出品調査報告

吉永陽三（当館学芸課長）

有田地区にある15か所の博物館・美術館・展示施設のみならず、有田町、西有田町在住の個人の方々にも広く出品を呼びかけてみては、とのご提案をいただきました。

そこで回覧板により、展覧会のお知らせと出品候補作品の調査をおこなう趣旨をお伝えしたところ、多くの方々から情報を寄せられました。

今年の1月30日から資料調査を開始して、3月6日までに、有田町と西有田町にある14の博物館・美術館・展示施設（九陶を除く）と、14の個人宅に所蔵されている作品の調査がおわったところです。

あとまだ10ほどの個人宅を調査する予定です。

これまでの調査に対して快く応じてくださった皆様方へ、まずは厚くお礼を申し上げます。博物館・美術館・展示施設に名品が展示されているのは当然のことながら、江戸時代から知られている旧家である個人宅にも、有田の名工や有名窯元の名品が大切に所蔵されていることがよく理解できました。

展覧会に出品されなかった作品は、いずれ機会をあらためて、有田町歴史民俗資料館などで第2弾の「有田の名宝」展が開催されることでしょう。

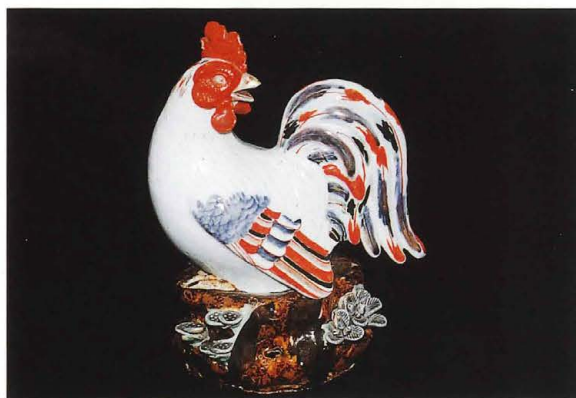
さて、それらの中からいくつかの作品をご紹介します。



今右衛門古陶磁美術館所蔵
「染付桃花文皿」17世紀末～18世紀初



源右衛門窯古伊万里資料館所蔵
「色絵芙蓉手花文皿」1660～70年代



(株)アートギャラリー賞美堂所蔵
「色絵鶏置物」1660～90年代



柿右衛門古陶磁参考館所蔵
「色絵粟鴉文八角皿」1670～90年代



有田町歴史民俗資料館所蔵
「染付陽刻鳳凰文火鉢」井手金作製・大正時代

「新収蔵品展」のお知らせ

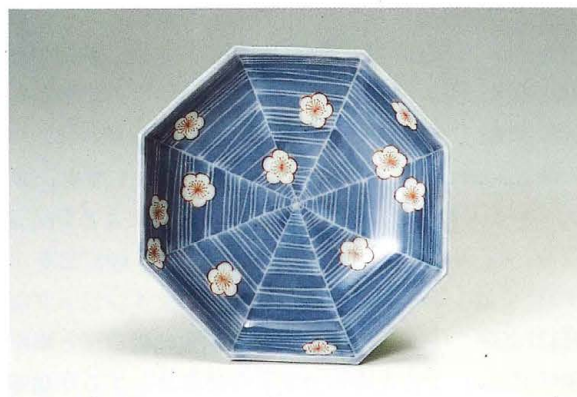
- 期 間 平成13年6月2日（土）～24日（日）
- 内 容 今回は、平成12年度に新たに収蔵した作品を展示します。展示作品は、近・現代作品を中心に唐津焼、古伊万里、鍋島、九州各県の陶磁器、ヨーロッパの陶磁器など約114点を展示します。
- 場 所 第1展示室



色絵桜花散文蓋付碗 1730～80年代
百溪正明氏贈



染付梅樹文隅入皿 明治40年代～大正時代
池田健作氏贈



色絵蜘蛛巣梅花文八角小皿 1690～1730年代
柴田祐子氏贈

有田焼からくりオルゴール時計 の御紹介

平成13年1月2日より、当館ロビーに新しい「顔」がお目見えしました。高さ193cm、幅180cm、奥行80cmの有田焼からくりオルゴール時計です。

古伊万里様式、柿右衛門様式、鍋島様式などの古陶磁の文様を題材にしたカラフルなデザインの有田焼の部品68個が文字盤、歯車、フレーム、足柱、人形などに使われています。

人形とオルゴールの曲目は四季に合わせて変わるようになっており、「早春賦」、「夏の思い出」、「小さい秋」、「雪の降る町を」の4曲が春夏秋冬に合わせ演奏されます。

午前9時から午後4時30分まで30分毎に演奏され、設置以来、好評を博し時計の前には観覧者が絶えません。



有田焼からくりオルゴール時計

平成12年度特別企画展報告

開館20周年・日蘭交流400周年記念

「古伊万里の道」展

平成12年10月3日から12月3日まで「古伊万里の道」展を開催いたしました。この展覧会については、館報No.35より、その状況を報告しておりましたが、当年度で開催に至りました。オランダの8ヶ所の博物館や文化財機関の出品協力と、加えて九州各地の個人所藏品と文化財機関、そして館藏品からの出品によって511点の作品、史料が展示されました。

展覧会は8つのコーナーにテーマを設けました。「1. オランダ連合東インド会社と航海」には、オランダ連合東インド会社商船の模型やコイン、大砲、地図など81点を展示し、「2. 最初期の輸出（1659年の記録から構成する）」では、ハーグ国立古文書館所蔵の1659年の輸出記録など25点を、「3. 特別注文製品」では、イニシャル入りなどのオランダのデザインによる製品52点を、「4. ヨーロッパ需要品（主に生活への浸透を示す）」では、豪華なサービスセットやワインジャグなど131点を、「5. ヨーロッパ需要品（主に鑑賞用と東洋趣味製品）」では大壺のセットをはじめとする作品90点を、「6. アムステルダム出土の肥前磁器では」ではアムステルダム市街地からの出土陶片54点を展示し、「7. 輸出向け製品の有田における生産」では有田町の古窯跡出土の輸出向け製品76点を、「8. 染付有田皿山職人尽し絵図大皿について」ではオランダのメスタッフ博物館と有田陶磁美術館に所蔵されている染付有田皿山職人尽し絵図大皿2点を比較展示しました。

開会式には、オランダ大使ご夫妻を迎え、有田磁器太鼓の演奏そして宗徧流による献茶がありました。62日間の会期中、20,020人の入場者があり、好評のうち終了することができました。また、毎週日曜日には佐賀県茶道連合会による茶会が開催されました。



オランダ大使ご夫妻を歓迎する有田磁器太鼓の演奏

共催展・共催行事報告

第97回 九州山口陶磁展

会期 平成12年4月29日~5月7日

今年の本展覧会にも、九州山口各県から183点の応募作品があり、その中から98点が入選しました。第1位の文部大臣奨励賞には、オブジェの「静寂なる日々」（佐賀県・岩田義實）が選ばれました。オブジェ作品が1席に選出されるのは、97回を数える本展覧会でも異例のことであり、新世紀を迎える九州山口の陶芸界に新たな展開を期待させる画期的な受賞でした。9日間の会期で4,470名の入館者がありました。



文部大臣奨励賞「静寂なる日々」 岩田義實

第18回 新工芸西九州工芸展

会期 平成12年5月17日~5月28日

今年は「美と生活を求めて」をテーマに、陶器・磁器・染色・鍍金・七宝・乾漆・木工・人形など多彩な工芸品60点が入選し展示されました。今回は、入賞作をはじめ若い作家の意欲作が目立った展覧会で、11日間の会期で2,517名の入館者でした。

塩田町・太良町手捻り作陶展

会期 平成12年6月6日~6月11日

塩田町・太良町の陶芸愛好家約70名の作品約300点を展示。全てロクロを使わない手捻り作品でありながら、小型の製品から大壺まで、多彩な作品で構成されました。壁面にも写真を飾るなど工夫を凝らし、他県から来館された陶芸愛好家からも好評を得ていました。6日の会期で、1,413名の入館者がありました。

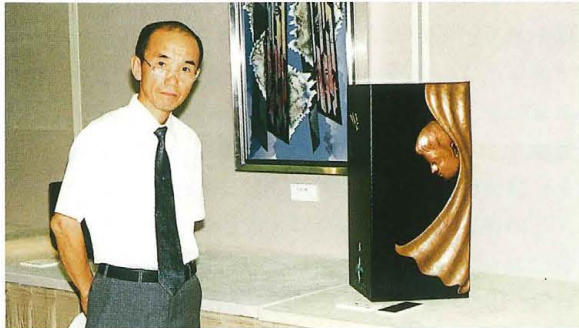


展示の状況

第16回 現代工芸美術九州会展

会期 平成12年7月23日~30日

現代工芸美術九州会主催による会員、会友及び公募による作品展。陶磁器をはじめ質の高い様々な工芸品が71点並び、来館者の目を楽しませました。7日間の会期で1,532人の入館者がありました。



現代工芸美術家協会九州会長賞「恵み」(彫鐫)と
作者の柴野勝一氏(長崎県)

開校100周年記念有田工業高校卒業生作品展 「有田で育った作家たち」

会期 平成12年9月15日~9月24日

有田工業高校の開校100周年を記念し、多くの卒業生の中から現在活躍中の作家68名による陶芸、グラフィック、クラフト、絵画、染色、ガラスなどの作品が展示されました。9日間の会期で2,762人の入館者でした。

第10回 佐賀県陶芸協会展

会期 平成13年1月2日~1月8日

毎年新春1月2日から開催される佐賀県陶芸協会展の当館開催も10回目の節目を迎えました。折しも、イギリス大英博物館で同協会による展覧会が行われ、続いて東京、佐賀での帰国展も控えた中での開催であり62点の各作品とも力作揃いでした。

第32回 有田工業高校卒業制作展

会期 平成13年1月23日~1月28日

例年の佐賀県立有田工業高校の第32回デザイン科、第12回セラミック科の卒業制作作品に加え、今年は電気科、機械科、工業化学科の生徒の作作品も展示されました。会場は第1展示室に他、研修室も使用して多くの作品が展示され、6日間の会期中に2,429名の入館者があり連日盛況でした。

第19回 西松浦郡小中学校学童美術展

会期 平成13年2月13日~2月18日

西松浦郡の小・中学生による作品展。佐賀県学童美術展などで県特選・県準特選・郡特選に選ばれた絵画

などの平面作品や陶器などの立体作品約250点が展示されました。創造豊かな作品が多く、低学年になるほど自由闊達な作品ばかりで、観覧者の目を楽しませていました。6日間で2,383名の入館者でした。

第12回九州陶磁器デザイナー協会展

会期 平成13年2月27日~3月4日

佐賀、長崎の陶磁器デザイン関係者による展覧会。今年は「色」をテーマに47名の作品約300点が、赤・青・黄・緑・紫・茶の6色のパートに別れて展示された。6日間で1,361名の入館者でした。

第15回 有田窯業大学校卒業制作展

会期 平成13年3月6日~3月11日

陶芸業界の将来を担う人材育成を目的とする県立有田窯業大学校の卒業制作作品展。今年は77人・約200件が出品され食器、花器、インテリア、人形、釉薬試験などが並びました。会期中には校長の酒井田柿右衛門氏や森正洋氏による公評会もありました。

6日間の会期で1,976名の入館者でした。



優秀賞作品(ロクロ成形研修生)

第16回 有田陶交会展

会期 平成13年3月13日~3月20日

有田の窯元青年部による新作発表会。今年は「21紀のプロローグより暮らしにやさしく、より豊かな未来へ」展として食器や花器などの作品が展示されました。

6日間で、2,115名の入館者がありました。

第11回 九州近世陶磁学会

平成13年2月10~11日の2日間、当館講堂を主会場にして、今や恒例となった九州近世陶磁学会が開催されました。

11回目の今年は「国内出土の肥前陶磁-東日本の流通を探る」のテーマのもと、北海道・東北、関東、甲信、北陸、東海の各地方の発表が行われました。全国から162名の会員が参加し、熱心な大会となりました。

シリーズ

やきものの技法 (32)

型紙刷毛目

文様を切り抜いた型紙を素地にあて、刷毛で白土を塗ることにより器面に文様を施すこと。必ずしも刷毛目が現れるわけではなく、刷毛目はむしろ型紙文の外側にみられることが多い。「摺り絵」や「型紙摺り」、「型紙絵付け」などの技法名で表してもよいが、白い化粧土が用いられていることを示す場合はこの「型紙刷毛目」と表される。

陶磁器に型紙を用いた摺り絵は、16世紀末の唐津焼飯洞甕下窯出土の鉄絵陶片が早い例として知られる。17世紀前半には椎の峯イッチン窯（伊万里市）や川古窯ノ谷下窯（武雄市）、小峠窯（武雄市）などの陶器窯で型紙刷毛目の製品が作られている。いずれも胎土は茶褐色であり、白い化粧土によって型紙の文様が施されている。窯から共に出土する砂目積みの皿により、型紙刷毛目が遅くとも1630年代以前に行われていたことが分かる。また同時代の有田の磁器窯である天神森窯でも、白磁胎に白土の型紙摺りが見られる。表現の印象はかなり異なるが技法は同じであり、肥前の陶器と磁器の技法の共通性が注目される。

型紙は和紙に柿渋を塗り、耐水性を有したものが用いられたと考えられる。この種の型紙は、染織の分野では早くから用いられており、陶磁の分野に応用されたと推測される。型紙の文様は切り抜きであるため、文様の単位が小さく表され、文様と文様の間にはわずかな隙間がある。器面に型紙をあて白い化粧土を刷毛で塗る。文様の単位が大きい場合は、白い面の中に刷毛の筋が見えることがある。また文字を彫り込んだ型紙で、裏返しに器面にあてたため文字が反転した作品もある。

(鈴田由紀夫)



型紙刷毛目唐花唐草文大皿
肥前 1610~40年代

シリーズ

やきものにみる文様 (32)

ウィレム4世肖像

ここに挙げている色絵瓶は、昭和58年に佐賀県立九州陶磁文化館の所蔵となった色絵ウィレム4世像瓶である。白磁の瓶に色絵で、横向きの西洋人物が描かれているが、これはオランダで絵付けされたものである。このように、有田製や中国製の白磁製品を輸出先のオランダで上絵付けしたのが見られる。付加価値をつけて更に販売しようとしたものであろうか。主に18世紀の中頃に絵付けされたものとされている。

この作品は、描かれている人物をオランダの独立戦争に功績のあった、フレデリック・ヘンドリック（1584-1647）と考え、色絵フレデリック・ヘンドリック像瓶と紹介されてきた。しかし、「古伊万里の道」展への出品にあたって、作品を再確認したところ、描かれている人物の風俗が17世紀前半のそれではないことから、疑問が浮上した。改めて記されている文字を解読したところ、描かれている人物は1747年にオランダ全州の総督に就任したウィレム4世（1711-51）であることが判明した。

アムステルダム歴史博物館には、同じくウィレム4世肖像を描いた中国磁器の皿があった。このようなウィレム4世肖像を描いた工芸品が存在する理由は、当時のオランダの政治情勢が背景となっている。オランダは、ウィレム3世（オランダの総督でありイギリス国王）の1702年の死後、総督不在の時代であったが、1740年代のフランス軍による侵攻に対抗するため、再

びオラニエ公から総督をかつぎだす動きがおこった。ウィレム4世の肖像が磁器に描かれるようになったのは、こうしたオラニエ公の支持者の意向を反映したものである。現在のオランダ王室はこのウィレム4世の直系の子孫にあたる。

(藤原友子)



色絵西洋人物文二重口瓶(西洋絵付)
有田 1670~1740年代

利用案内

開館	9:00~16:30 月曜休館（祝日は開館） 年末年始の休館は、12月28日~1月1日
観覧料	無料（特別企画展は、その都度定めます。）
交通	J R九州佐世保線有田駅下車徒歩約10分